



長崎市立三原小学校

寄り合って、寄り添って、みんなで育て、みんなで育つ～

「笑顔いっぱい！真剣いっぱい！感動いっぱい！の三原っ子」

MIHARA TIMES

令和5年10月03日発行

文責 校長 宮原 友彦

◆ 小体会選手を励ます会で、応援しました！

本日、10月11日(水)に実施される長崎市小学校体育大会に出場する6年生を励ます会を実施しました。

長崎市小学校体育大会は歴史のある大会で、今回で61回を迎えます。市内約3,200人の6年生が、陸上、球入れ、長縄、バスケットボール、サッカー会場に分かれて、同じ練習期間、同じルールで競い合います。

育友会からいただいた教育振興費を活用して、今年初めて柿泊陸上競技場に練習試合に行ってきました。それまでは、あまりしっかりした課題意識を感じない練習ぶりだったのですが、他校と合同練習を行ったことで、取組に俄然真剣味が出てきました。まさに「井戸の中の蛙、大海を知らず」だった6年生が大海(まだまだ小さめですが…)を知ったことで、一ランク上に成長したのです。球入れ種目の選手も、5年生と対戦することで、1個の重みを実感することができたようです。

また、今日まで何日もかけて下級生を取りまとめしてきた5年生の応援リーダーを中心に、在校生の応援への取組も立派なものでした。



全校の大応援団からの体育館が震えるような大きな声援をもらったことで、6年生の気持ちもあらたに引き締まったようです。来週が楽しみになりました。

“Do your best!” 勝っても負けても、競う相手に感謝し、周囲の関わった人々をリスペクトできるような人に育ってほしいと願っています。

◆ 親子はみがきが実施されました！

三原に吹く風

9月27日(金)、学校歯科医の出口先生の御厚意で、親子歯磨き教室がありました。1年生と4年生の2学年ですが、毎年この学年が行うのには、理由があります。子育てで大切なことは、「手をかける」「声をかける」「目をかける」の三段階を意識して関わることとされています。

発達段階や個人差もあるので、一概には言えませんが、親と一緒にやることで促したり、教えたりしながらコミュニケーションを図るのが「手をかける」段階。



少し本人に任せるけれど忘れていないか確認する「声をかける」段階、そして、本人が一人でちゃんとやっているか確認する「目をかける」段階です。この場合、1年生は「手をかける」、4年生は「声をかける」段階でしょうか。

小学校のうちに、大人が意識して関わることで、大切なことは習慣化するまで続ける。それが一生涯を支えることになるのは、歯磨きばかりじゃありません。反抗期となり、素直に話が聞けなくなる前に、子どもたちにしっかりと関わっていきたいですね。

◆ 憩いのベンチ、球入れの的！

三原に吹く風

ターザンロープの足場の丸太が老朽化したため、グラウンドの丸太の平均台を流用して、夏休み終わりごろに修理が完了しました。実は私も知らなかったのですが、電柱が木だったときは、古くなると丸太として再利用されていたので値段は高くはなかったそうなのです。しかし、現在は電柱がコンクリート製のため、丸太を手に入れようとすると、木をまるまる一本切り倒さないといけないため、値段が高騰しているようで、一番人気のターザンロープを修理するための苦肉の策でした。その代わりに、野副



庁務員が子どもたちが日陰でくつろげるように、残った木材を再利用して、3つベンチを作ってくださいました。大切に長く使っていききたいですね。